

夏休みが終わって登校してきた子どもたちは友だちに会えたことが嬉しかったようで、いつも以上に教室にも校庭にも笑顔が見られたように感じました。

7月末から始まった理科室改修、家庭科室新設の工事も順調に終わろうとしています。同時に昇降口、1・2階の廊下の照明をLEDにしたため、学校に入ってきた子どもたちは昇降口の明るさに驚いていました。子どもたちが活動しやすいような環境作りはこれからも継続して行っていかなければならない課題です。

【大きくなったね】

休み明けの朝会で、子どもたちに話したことの一つに、「大きくなるということは」がありました。夏休みに久しぶりにおじいさん、おばあさん、親戚の人たちに会うことが多かった子どもたちだったと思います。朝会で子どもたちに、久しぶりに会った人からよく言われるのはどんなことでしょうか？と聞くと1年生の女の子が手をあげて「大きくなったねです」と答えてくれました。それをみんなに聞くと多くの子どもたちが手をあげていました。背丈が伸びたこと、体格がよくなったことはとても分かりやすいですが、それだけで成長を感じてもらえているわけではないでしょう。会話をしたときに、話が聞けるようになった、自分の考えを話せるようになったと思われることもそうでしょう。優しくなったとか落ち着いてきたとかそういうこともあるでしょう。子どもたちは少しずつかもしれませんが確実に成長しています。

今回の朝会ではもう一つの見方として、何人の人とかかわることができるか、何人の人のことを思い、ときに心配したりすることができるか、その人数がだんだん多くなることも「大きくなる・大人になる」ということにつながるという話をしました。

学校においても、自分のことで精一杯の頃から、友だちや下級生のことを思いながら生活できるまでに子どもたちは変わってきます。素晴らしいことです。

子どもがそういう成長をしていけるような環境を作るのが学校、家庭の役目です。

【心の糸】

学校では子どもたちが勉強、運動、遊びなどをしながら一日を過ごします。実際にはどの活動も楽しく、穏やかな気持ちで取り組めるかと言えばそうではないかもしれません。自分があまり得意でないこと、自信がないことに取り組まなければならないときはやや緊張状態になり、心の糸もピンと強く張られた状態になることでしょう。そんなときに誰かに何かを指摘されても受け入れることが困難なことがあれば、それをはじき返してしまうことは容易に想像できます。

子どもたちが少し荒い言葉を発するときは、まさに心の状態がそのようになっているときかもしれません。心の糸の張り方はその人の表情として相手に伝わります。このときの子どもの目の前にいるのは友だちか、親か教員であることがほとんどだと思います。そんなときどうしたらよいのでしょうか。少なくとも、親と教員は自分の心の糸を子どもと同じようにピンと強く張るのではなく、子どもがぶつかってきたときに、その力を吸収することができるように自身の糸を緩めてみる必要があります。以前子どもたちに心のしなやかさを求めることがよくありましたが、しなやかな心を持つべきなのはむしろ大人であると考えます。

小学校でも、高学年になるといろいろな理由から心の糸を強く張っているように感じられる子どもが目立つような気がします。それはまわりの大人がそうさせていると考えて、子どもたちの思いを理解できるようにがんばってみましょう。

笑顔の大切さは誰もが分かっています。笑顔になれるときは、心の糸がピンと張っているときではないでしょう。肩の力を抜くというのも同じことなのかもしれませんが、大切なことは自分の心の糸を少し緩めて人と向き合うことではないでしょうか。それができないと相手に通じる笑顔にはなれないはずです。

【違いを超えて】

多くの仲間たちとの毎日の生活ですから、子どもたちの間にいろいろなぶつかり合いがあることは避けられないです。しかし、そのぶつかり合いによって、子どもが鍛えられること、かえって気持ちが通じ合えたというようなこともあるはずです。

子どもどうしのぶつかり合いはときに喧嘩や言い争いのように見えることがあり、それはできればないほうがよいと判断し、早い段階で問題を解決するために大人が入り込むことがあります。好ましくないことが起きていれば、まわりの大人はそれをやめさせようとするのは当然のことです。しかし、その傾向が強くなりすぎると子ども自身がそのぶつかり合いから学べる多くのことを奪うことにもなってしまいます。

大切なことは、日々の経験を生かし自分が何らかの問題に直面したときに適切な判断ができるようにすることです。また、他者との意見の相違を受け入れつつ自分の考えをより確かなものにしていくことです。そして、忘れてはいけないのは子どもが自分で考えて自分で行動できるようになるということです。